



2008  
**42**

「忘れ得ぬ9.28災害 災害誌(美濃加茂市)より

## 9.28災害を振り返り

1983(昭和58)年、美濃加茂市や坂祝町などで未曾有の浸水被害を招いた、あの9.28災害から25年が経過しました。この間、国土交通省中部地方整備局では、再度の災害発生を防ぐべく木曽川の堤防や護岸を整備すると共に、丸山ダムの洪水調節機能の強化を目的に、新丸山ダムの建設事業に取り組んでまいりました。

一方、近年では地球温暖化に伴う気候変動が危惧されています。今年の降雨の状況をみても、短期間に集中して大量の雨が降るゲリラ豪雨が全国各地で発生しているかと思えば、四国地方などでは反対に幾日も続く渇水があったりと、水を治め利用していくことは、ますます困難を伴うようになってきています。

国土交通省では、災害を未然に防ぐ対策は鋭意進めておりますが、重大な災害発生時、または災害が発生する恐れがあるときに、効率的かつ円滑に被災地等の支援を行うため、本年5月、「テックフォース(緊急災害対策派遣隊)」を立ち上げました。6月に起きた岩手・宮城内陸地震や、9月の西濃地域集中豪雨の際にも、地方公共団体からの要請を受けて出動したテックフォースの働きにより、速やかに危険箇所の把握がなされ迅速にその対策が施された結果、二次災害を最小限に留めたものと考えております。

今号の「みづしるべ」は、9.28災害を振り返るなど、防災を中心にすえた特集号と致しました。新丸山ダム工事事務所においては、今年が9.28災から25年に当たることを契機として、新丸山ダムの早期完成に向け取り組んでまいりたいと考えます。

なお、今号からは印刷物での配布からホームページを中心とした配信に切り換えさせていただきました。今後は事務所ホームページの利便性などを高めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# あの9.28災害から25年

昭和58年9月28日、台風10号による豪雨によって木曽川は記録的な大出水となり、美濃加茂市や坂祝町などで氾濫し大きな被害をもたらしました。その災害から今年がちょうど25年にあたります。悲惨な災害を繰り返さないために、ここでは特に被害の大きかった美濃加茂市の当時の様子を振り返ってみたいと思います。

## 一晩で泥沼化した美濃加茂の市街地

台風10号により、木曽川中流域には300mmを越える大雨が降りました。この大雨によって木曽川の水位が上昇、ついには氾濫し、美濃加茂市今渡ダム下流約7.8km間で浸水被害が発生し、特にJR美濃太田駅の南側が広範囲にわたって浸水しました。

この災害により、**死者・行方不明者4名、4,588戸もの家屋が浸水被害を受けました。**

浸水は最も深い地区では4m以上にもなり、2階屋根裏までも水没しました。美濃加茂市の市街地は、一晩にして「廃墟の町」のような様相を呈しました。



当時の浸水範囲を示した図面



浸水する家屋



日本ライン下りの船で  
救出される住民



美濃加茂市役所 1 階



家財が流出し  
廃墟と化した町

被災写真出典：「忘れ得ぬ9.28災害 災害誌(美濃加茂市)」より

## 二度とあの惨劇を繰り返さないように…

この災害を契機として、「激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）」、「緊急改修計画」として美濃加茂市から坂祝町にかけて木曽川の築堤や護岸工事などが行われました。これらの事業により、弱小堤防だったこの地区的堤防は強化され、大きな被害を被った美濃加茂市も、現在では中濃地域有数の商業都市として発展しており、災害を受けた面影は見当たりません。

しかし、現在でも9.28洪水と同じ規模の洪水が発生した場合、再度被害が発生する恐れがあります。9.28洪水を安全に流下させるためには、丸山ダムの洪水調節機能を強化させる、「新丸山ダム」の建設が必要です。



激特事業により完成した美濃加茂市右岸堤防

## 9.28災害を忘れないために…

美濃加茂市内には災害時の水位を示した「表示板」や「標柱」がたくさん残されています。

右の写真は、市立太田第一保育園の外壁に残された水位表示板です。



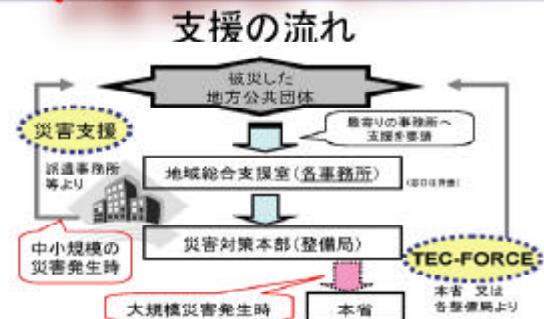
水位を示した「表示板」

「テックフォース」が災害支援を行います!!

「テックフォース」とは、被災した地方公共団体などに対して、国土交通省の『資機材・マンパワー・ノウハウ等』を活用した応援・支援を行う、『緊急災害対策派遣隊』です。

災害時の支援は右図のような流れで行われます。

「!! いざという、その時に!!



岩手・宮城内陸地震(H20.6.14 震度6強)

岩手・宮城内陸地震において、新丸山ダム工事事務所からも、工務課長がパックフォースの隊員として出動しました。

そのときのエピソードのひとつをご紹介します。

宮城県内の、崩壊により道路が埋没した地区で現地調査を行っていたときのこと、その道路を開放するために除けた土砂により、支川が堰き止められ水が溜まり始めていた箇所を発見。その近くには民家もあります。早速本部に詳細を直接説明し、翌日には宮城県が水路確保工事を行い、大事には至りませんでした。

### 西濃豪雨(H20.9.2~9.3)

揖斐郡池田町の土砂災害においても、新丸山ダム工事事務所から工務課長、調査係長が出動し、土砂災害の対策として緊急点検活動を行いました。

こういった、現地調査・応急復旧工法等の技術指導のほかに、排水ポンプ車や照明車等の派遣といった業務もテックフォースの役割です。

災害発生時、または発生の恐れがある場合には、頼れる青い服の派遣隊「テックフォース」があなたの街の安全を守ります。



せき止められた支川の深さを調査中  
〈宮城県栗原市栗駒沼倉地内〉



渓流部の崩落状況を調査中  
(岐阜県揖斐郡池田町藤代地内)

## 災害被災地支援と復興支援



10月10日、NPO法人レスキューストックヤードの松田曜子氏を講師にお招きし、近隣市町の職員を交えた約40名で、平成19年発生の能登半島地震で被災した穴水町での復興支援活動を事例とした、災害支援のあり方などのお話を伺うと共に、それぞれの立場から災害支援について意見交換を行いました。

国土交通省は、災害直後のハード的な支援を中心に行いますが、レスキューストックヤードの活動は、災害直後から街の復興までのソフト的支援です。「ピンチをチャンスに」とらえ「震

「災前より活気ある街に」を目指して穴水町の復興に取り組む松田氏の姿勢に、力強さを感じました。

ハード的支援とソフト的支援、その両方が相まって本当の災害支援となると考えており、NPOの皆様とも密接な連携を図っていきたいと考えています。



# 新旅足橋、いよいよつながります！

国道418号の付け替え道路として、平成16年から工事を進めてきた新旅足橋の工事も、いよいよ12月に橋の両岸がつながります。



平成20年10月



平成20年3月

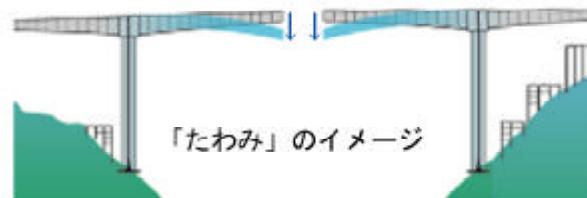
橋長462mの新旅足橋は、11月中旬には橋の中央部分がつながり、12月には両岸がつながります。これによって、潮南地区と八百津地区が旅足川の谷を越えて結ばれます。

今後は、21年度中に潮南までの供用を目指し、安全施設等の工事を進めていきます。

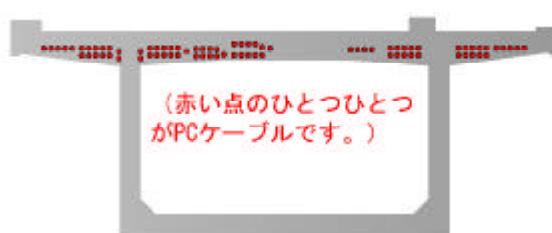
高度な技術で

## ピッタントコ

やじろべえのように2本の橋脚から張り出したコンクリートの橋桁は、延びていくにしたがって、徐々に「たわみ」が出てきます。



「たわみ」のイメージ



主桁の断面詳細図

それを、中央で寸分の違いもなくピッタリとつなげるためには、橋桁の重量による「たわみ量」、その他施工の過程で発生する種々の「たわみ量」を精密に計算し、橋桁の中を通っている100本を超えるPCケーブルの1本1本を、大きな力で引っ張ることによって、橋を支えつつ「たわみ」を抑えます。

この高度な技術があって、はじめて新旅足橋が完成します。



## 第16回「新丸山ダムふれあい広場」を開催します！

11月9日(日) 9時～15時 於：新丸山ダム工事事務所

今年は、災害対策本部車や排水ポンプ車、照明車、衛星通信車などめずらしい災害対策車両がズラリと並びます。災害時に現地での拠点となる「本部車」の中はいったいどのようにになっているのでしょうか？実際に見て、触れていただき、その大きさや頼もしさを実感してみて下さい。



災害対策本部車

今年のメニューは

- 災害対策車両の展示
- テックフォースのご紹介
- 丸山ダム水源地ツアー



照明車

※「まちづくり“八百津”ネットワーク」主催

詳細は、<http://www.cbr.mlit.go.jp/maruyama/>でご覧下さい。

- 水資源機構コーナー（流木のお持ち帰りなど）
- 関西電力コーナー（変わり種自転車の試乗など）

新丸山ダムふれあい広場でお待ちしています！！